

知事との県民対話集会（下諏訪町）概要

- ・開催日時 令和5年6月1日（木） 午後3時から午後4時30分まで
- ・会場 下諏訪総合文化センター あすなろホール（小ホール）
- ・参加者 県民27名、宮坂下諏訪町長、阿部知事、宮原諏訪地域振興局長 他
- ・テーマ 防災意識日本一のまちを目指して

・主な発言（要旨）

【参加者】

・消防団として活動している。（災害）弱者の情報が乏しく、個人情報保護のため情報が開示されていないのが実情。要援護者あるいは弱者の情報を共有できるような仕組みづくりや方法について知事の考えがあればお聞きしたい。

【知事】

・個人情報保護法上どうしても突破できない部分や県が余計な指導をしている場合は、県で考える必要があるが、まずは地域でのコミュニケーションがもっと取れるのではないかと思う。消防団側が住民に声掛けをすることで、協力してくれる住民は必ずいるし、住民のニーズを掘り起こしてやってくれるという思いが伝われば、災害時にも消防団に協力してくれると思う。

【参加者】

・個別避難計画を推進していくということは、地域の方一人一人が具体的な避難について改めて意識する機会だと感じている。若い人も将来的には一人一人に降りかかる問題であるということについて、PRをお願いしたい。
・地区の防災力と県や国から示される大きな枠組みを、どのように擦り合わせていくかという点について課題として考えていきたい。

【知事】

・防災については一人一人に考えていただくべき問題なので、県からもPRしていく。自分事として積極的に考えてもらうためには、主体的に関われるかどうかが大きい。皆で避難の計画を考えて、皆がコミットしていれば、いざという時に自発的に動くことができる。
・県の枠組みと町の防災力をどう合わせるかということは考えていきたい。地域ごとの自主的な判断を尊重できるようにするということは、常に考える必要があると思う。

【参加者】

・知事の視点から、災害に対する問題や小中高校における防災活動についてご意見を伺いたい。

【参加者】

・高校生も防災活動に協力していくことで、防災意識日本一のまちを目指していくことができると思う。高校生や中学生などに向けて、知事が望むことを教えてほしい。若い人や高校生向けに防災教室を増やして、防災への意識を高めていくのはどうか。

【知事】

・高校生ができることは沢山あるので、そのことについて、私に聞くよりは地域の実情を知っている本日の参加者に聞いてもらう方がよいと思う。まずは自分の身近な地域のことや何が必要とされているのかということを知るところから始めた方がよいのではないか。

【参加者】

・発災の状況の応じて、自分の身や家族を守るためにやらなければならないことは山ほどあり、一つ一つ覚えていくことが重要。必要があれば高校生に教えていきたい。

【参加者】

・実際の経験が大事になってくるため、身近なところから探すと高校生ができることが沢山あるのではないか。

【参加者】

・今年度初めて高校生を対象として防災講座を開催した。大きな手応えがあり、本日高校生が知事に防災に関する投げかけをしていることに感動している。こういうことをコツコツ積み重ねながら、地域防災力を高めるバトンを高校生に渡していきたい。

【知事】

・高校生を巻き込んで年代を越えてつながりをつくってもらおうと、防災力の向上につながっていくと思う。どこを核にしてつながるのかという点を考えてもらえるとよいのではないかと。

【参加者】

・教育の多様性、特に発達障がいを持つ子どもについて、個性を伸ばしていくような教育があればいいねという話が子育て中の方との間で話題に出る。ユニークな学校がある地域に移住者が増えるという現実もあるため、下諏訪町もそういう選ばれるまちになればよいと思う。

【知事】

・一人一人の能力を活かせるような学びへと転換していきたいというのが私の思い。高校再編を進めており、特色ある県立高校づくり懇談会をつくって、単なる学校の再編ではなくそれぞれ特色ある学校づくりをしていきたい。小中学校はほとんどが市町村立なので、私に関わる余地があまりないが、信州学び円卓会議をつくり、オブザーバーで参加して意見を伝えていきたい。
・不登校や発達障がいの子どもが増えているため、子どもたちの居場所がなくならないような社会にしていきたい。また、信州型フリースクール認証制度をつくらうと思っている。県としてしっかり認証して、一定の支援を行っていかうと考えている。

【参加者】

・砥川は土砂の流出が多い河川のため、土砂の浚渫についてしっかり対応していただきたい。
・近年、諏訪地域各地で土石流が発生している。これからの防災対策について県としての考えを伺いたい。

【知事】

・砥川の河川改修については県としても力を入れて取り組んできており、県全体でも浚渫予算をかなり増やして取り組んでいる。河川改修よりも既存の河川を浚渫した方が効率がよいと、可能な限りしっかり対応していく。
・諏訪湖の周りは土砂災害の危険な地域がたくさんあるため、砂防施設の整備もしっかり取り組んでいく。主伐して木を植え、防災面からも森林が役立つようにしていきたい。

【胡桃諏訪建設事務所長】

・砥川について、特に河口のところが心配という話を聞いており、昨年浚渫を行い、今年度も残りの浚渫を行う予定。
・下諏訪町は、山から平地までの距離がないという特徴があるため、高木地区で三基、堰堤の新設事業を進めている。工事の際には説明を行うため、ご協力をお願いしたい。

【参加者】

・若い人たちが長野県に戻ってこないという県が発展しない。今から手を打たないと。そのために働く場、産業誘致を仕掛けていかないと若い人が戻ってこないと考えるが、県の考えがあれば伺いたい。

【知事】

・若い人の県外流出を何とかしなければならぬことは、ご指摘のとおりだと思う。以前と環境が違うのは、人手不足ということ。むやみに企業誘致をしても人の取り合いになってしまう状況のため、どういった企業を誘致したらよいかを考えながら取り組む必要がある。
・長野県の人口問題の一番のネックは高等教育機関が少ないこと。構造的な要因を何とかしなければいけないため、県として学ぶ場をもっとつくりたい。
・人口減少、少子化は、県として検討会議をつくって、緩和策と適応策の両方を検討していきたいと考えている。できるだけ大胆な政策を出せるようにしていきたい。